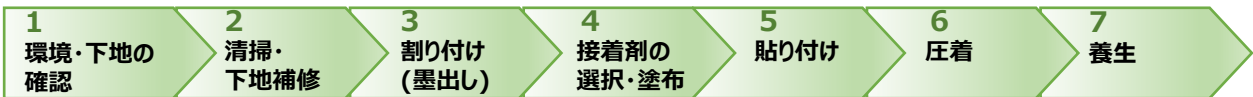


既設床材へのフロアタイル重ね貼り施工方法

■基本手順



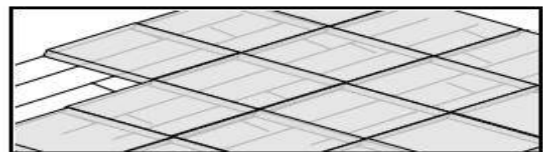
1. 施工商品の確認

- ・複層ビニル床タイル (FT/JIS) 2.5mm 厚フロアタイル →完全接着工法を選択してください
- ・置敷きビニル床タイル (FOA,FOB/JIS) OT、リフォルタ →完全接着工法、ピールアップ工法が選択可能です

2. 下地 (既存床材) の確認と対応

Point !

- ・**下地となる既存床材にヒビ割れ、凹凸や、段差がないか確認してください。**
上記がある場合や既存床材がフローリングなどに面取り加工などの目地がある場合、下地補修材フロアセメント (BB-492, 493)、リフォームコート (BB-573) を使用し平滑にしてください。下地に凸部がある場合、サンダー処理などを行ってください。既存床材の表面が平滑でない場合、普段ご使用されるなかで接着不具合や目地の発生、また下地の形状が床材表面に陰影として現れる事があります。
- ・**扉などの建具と床面の隙間、框 (かまち) や敷居との段差 (塵) の確認**
フロアタイルを重ね貼りすることで扉やドアなどの既存建具と床材が干渉しないか、框や敷居で段差が生じないか確認をしてください。干渉する場合は必要に応じて建具や敷居の高さ調整など、対応をおこなってください。
- ・**既存床材と下地の間に浮きや剥がれがないかを確認してください。**
既存床材と下地の接着がされていない、または弱い状態で重ね貼りをすることで既存床材と一緒に剥がれる場合があります。施工をお勧めできません。
- ・**既存床材に汚れやワックスなどのコーティング剤が付着している場合、清掃、ワックス・ペンキ塗装・表面コーティング材がある場合は必ず除去してください。** 除去せずに施工することで床材と既存床材の接着不良を発生させることがあります。
- ・**完全接着工法の場合、下記の下地には施工ができません。** 施工後に接着不良を発生させる場合があります。
(1)クッションパッキング付きの遮音フローリング (2)クッション性が高く沈み込みの激しい床材 (クッションフロア、発泡層のある長尺シート) 等。
- ・既存床材が防水処理の無い土間コンクリートなどの下地の上に施工されている場合、重ね貼りをすることで既存床材に下地湿気の影響に問題ない場合でも、重ね貼りをして下地湿気の通り道を塞ぐことで不具合が発生することがあります。
- ・既存フローリングの目地の間隔が広く隙間が空いている場合や、下地に段差や凹凸がある場合など、**下地補修をしないで重ね貼りした場合、歩行や使用される中で床材が下地の形状に馴染んで、下地の凹凸が陰影となって現れる場合があります。**
- ・既存床材が床暖房仕様となっている場合、既存床材がしっかりと接着され動かず、膨れや浮きなど不具合の発生が無い事を確認した上で、床暖房下地への推奨施工法に準じて施工してください。ただし暖房効率や、機能性床材の性能が落ちたり、また予期できない不具合発生の可能性はありますので十分ご検討、ご注意ください。



3. 割り付け、墨だし

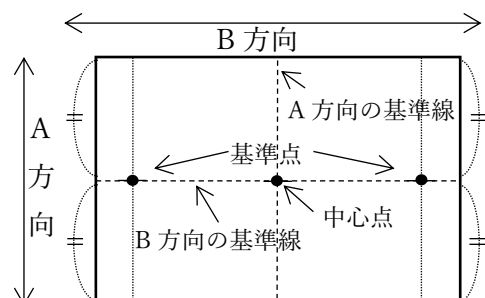
- ・部屋の縦横の最大値、壁の引っ張りや柱の位置を実測し、原則として墨打ちした基準線を中心にして部屋の左右対称になるように割り付けます。壁際には、商品の 1/2 以下の細かいサイズの端物はできる限り入らないようにします。部屋の隅に細かいサイズの端物がくる場合は、基準線を中心から半分ずらす。サイズが小さいと美観を損ねるだけでなく、壁際は施工するタイミングが部屋の中央と比較して遅れるため接着剤が湯気気味で施工することが多く、小さなタイルだと剥がれやすくなってしまいう可能性があります。また床の設置物などに考慮した割り付けが必要になる場合もあります。また既存下地がフローリングの場合、フローリングのつなぎ目とフロアタイルの目地が重ならないように注意してください。

＜墨出し＞

- ・部屋の長手方向に基準線を墨出し、それをもとに短手方向にも基準線を引きます。その2本の基準線に沿ってタイルを丁寧に敷き並べていきます。

＜基準線の墨打ち＞

- ・A方向の寸法を2カ所以上で測り、それぞれ2等分した位置を基準点とします。
基準点2点を結んだ線がB方向の基準線であり、同じようにA方向の基準線も割り出します。



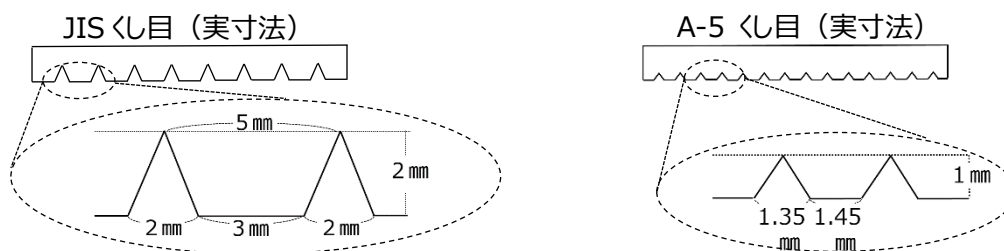
4. 接着剤の選択・塗布

既存床材の場合：

ウレタン樹脂系溶剤形接着剤 WPX (BB-479,480)、またはエポキシ系溶剤形接着剤 EP-300 (BB-584,575) をくし目 A-5 (BB-616) を使用して塗布します。くし目 A-5 はくし目のピッチが細かく、塗布量を JIS くし目よりも約 25%~30%抑え、吸水性の無い既設床材に最適です。

〈注意点〉

オープンタイムが不足するとエアが発生し床材に膨れが生じる可能性があるので注意してください。壁際の端部切込みなど時間がかかる作業時には塗布量が少ないことで使用可能時間を超過してしまう場合があります。また接着力を求められる現場ではくし目 A-5 では塗布量が不足する場合があります。

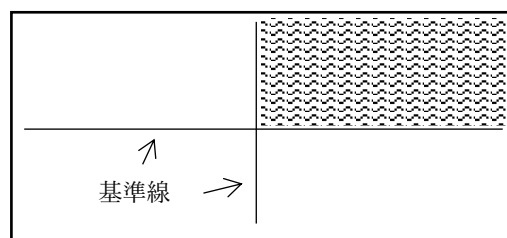


- ・下地補修材フロアセメント (BB-492,493)、リフォームコート (BB-573) で全面補修した下地の場合：
アクリル樹脂系接着剤 AR (BB-516,517)、PC-2 (BB-576,577) を使用して一般工法で施工が可能です。接着剤に付属のヘラを使用して塗布してください。
- ・置敷きビニル床タイル (リフォルタ, OT) を施工する場合：
ピールアップ接着剤 GTS (BB-588,558) を使用して施工が可能です。それぞれの床材の施工方法は別途施工要領書をご参照ください。

- ※塗布して余った接着剤は缶に戻さないでください。
- ※原則として開封後に保管された接着剤は変質している可能性があり、使用しないでください。

〈塗布手順〉

基準線で仕切られた 1/4 面を中心から接着剤を塗布し、タイルを敷きこんでいく。敷きこみ作業時間に対する接着剤の貼り付け可能時間を考慮し、必要な分だけ塗布していく。



5. 貼り付け

- ・オープンタイムを取った後で目地ずれないように基準線を中心から貼り広げていきます。オープンタイムが不足すると初期粘着力不足や、目地から接着剤のみみ出し、溶剤タイプの接着剤では床材の軟化が起こる可能性があります。逆にオープンタイムの取りすぎは粘着力低下に繋がり、くし目の跡が残ってしまうことがあります。オープンタイムは接着剤の種類や温度・湿度・下地にも影響を受けるため塗布した接着剤に触れて乾燥具合を判断してください。
- ・壁際などの切り込みを必要とする部分をカットします。壁面に施工するタイルをその手前のタイルに重ね、定規や別のタイルに合わせて切り込みます。
- ※切り込み枚数が多いときは、接着剤が乾燥してしまうため、接着剤を後で塗布するなど配慮が必要となります。

6. 圧着

貼り付け後、速やかに圧着する。壁際も残さず全体をローラーでよく圧着してください。

7. 養生

施工完了後、床材の浮き、膨れ、剥がれ、突き上げなどの不備、接着剤などによる汚れがないか確認してください。また接着剤が完全に乾燥固化するまでは突き上げ・目すき・膨れや凹みなどを発生させる恐れがありますので下記に注意してください。

- ・重量物などのキャスターによるしごき、設置は避けてください。
- ・室温の変化が大きい場合は適切に温度管理をして急激な温度変化は避けてください。
- ・直射日光が床面に当たらないようにしてください。
- ・監督者と協議の上、可能であれば床面の汚れや破損を防止するため必要に応じて養生シートなどで保護してください。